

無心

「むしん」

河瀬中学校・高等学校

私事になりますが、河瀬中学校・高等学校は私が平成19・20年度の2年間校長を務めた学校です。中学生と高校生と一緒に稽古をするという中高一貫教育校独特の雰囲気のある道場の正面にひときわ大きな部旗が掲げられています。

河瀬高校剣道部の草創期に顧問をしておられた中村隆洋先生によりますと、開校間もない河瀬高校では、生徒会が校章を描いた同じデザインの部旗を各部に配布していたので剣道部もそれを使用していたそうです。しかし、県内各校の部旗が剣道にまつわる言葉を染め抜いているので、部員と相談して、当時書道を教えておられた小林巧先生に揮毫してもらい今の部旗を作ったということでした。

「無心」という言葉ついて、江戸時代前半に登場した沢庵宗彭（たくあんそうほう）という禅僧が、柳生宗矩（やぎゅうむねのり）のために書いた剣道の奥義書「不動智神妙録（ふどうちしんみょうろく）」の中で次のように述べています。

「無心の心と申すは、固り定りたる事なく、分別も思案も何も無き時の心、石か木かのやうにてはなし。」つまり「無心というのは、心の中に何のこだわりも執着心も無く、あれこれと考えたり悩んだりするようなこともない心の状態で、決して石や木のように心が無いというのではない。」というのです。

「無心になれ」といわれてもなかなか難しい事ですが、たとえば、夢中になって剣道に打ち込んでいて、ハッと気がついてみると、今までどうしても出来なかった技が身についていたということなどはよくあると思います。こういう経験を積み上げていくことで沢庵禅師の言う「無心」の境地に近づいて行くのかもしれませんが。